琉球大学学術リポジトリ

ロシアの留学生教育　－サンクトペテルブルク国立大学言語特別学部の事例（2008年）－

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学留学生センター
	公開日: 2012-04-19
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 副島, 健作, Soejima, Kensaku
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/24135

留学生教育 第9号，2012
（琉球大学留学生センター紀要）

ロシアの留学生教育
―サンクトペテルブルク国立大学言語特別学部の事例（2008年）―

副 島 健 作

0. はじめに

筆者は2008年3月から同年9月までの約7ヶ月間，ロシア政府奨学金を得て，ロシアの古都サンクトペテルブルクに位置するСанкт-Петербургский Государственный Университет（サンクトペテルブルク国立総合大学，以下，СПбГУ（エスペーベーゲーウー）と表記する）で海外研修の機会を得ました。СПбГУ（エスペーベーゲーウー）では研究生という身分でロシア語やロシアの少数言語の言語状況についての研究に従事しましたが，ロシア語教育の現状を把握するため，同校のロシア語プログラムに属し，ロシア語を受講しました。ロシアで外国人である筆者が外国語であるロシア語を学んだ体験は，日本において日本語を学ぶ留学生の立場に通じるところがあり，個人的には大変有益でした。帰国直後にはそこで見聞したことをまとめ，報告会を行いました（12月19日（金），於留学生センター1階）が，忙しさにかまけ，報告書にまとめることはしていませんでした。それから月日が流れ，現状との相違も多々あるかと思われましたが，当時のロシアの留学生教育の状況をこうして報告書の形として残しておくことは，本学留学生センターの留学生教育，日本語教育の将来を考えるうえで多少なりとも役に立つこともあると思われます。そこで本稿では，2008年当時のロシアにおける留学生教育の状況についてСПбГУ（エスペーベーゲーウー）の留学生教育事情を事例として報告いたします。

1. サンクトペテルブルク大学について

図1. サンクトペテルブルクの位置

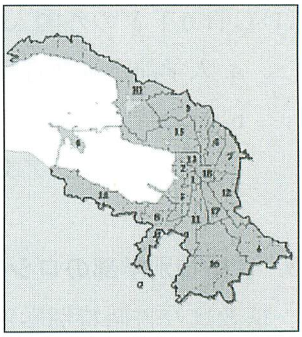

図2. サンクトペテルブルク市

サンクトペテルブルクはロシア西部，バルト海に面したロシア第2の都市で，かつてロシア帝国の首都であったところです。第一次世界大戦開戦以降（1914-24年）はペトログラード，ソ連時代（1924-91年）はレニングラードとよばれていました。面積は約1,431㎢で，

図3. サンクトペテルブルク国立総合大学

那覇市の37倍，静岡市とほぼ同じ広さです。人口は457万人（2008年現在）。日本との時差は−6時間（夏は−5時間）となります。1703年5月27日ピョートル大帝の命により建設された都市であり，市中心部に運河が縦横に巡る美しい街並みが特徴的です。

СПбГУは1724年ピョートル大帝により設立されました。学生数は学部生約32,000人，大学院生約4,000人，教員数約6,000人。19学部（生物・土壌学部，東洋学部，経営学部（経営大学院），地理・環境学部，地質学部，ジャーナリズム学部，史学部，数学・力学部，医学部，国際関係学部，応用数学部，心理学部，社会学部，物理学部，言語・芸術学部，哲学・政治学部，化学部，経済学部，法学部）からなるロシア有数の名門大学で，ロシアの教育，文化面で多大な役割を果たし，有為の人材を多く輩出しています（データはすべて2008年現在）。

2. ロシア語を学ぶには

СПбГУでは学部や大学院で多くの留学生を受け入れており，学生の約10%，つまり3,000人あまりが留学生です。琉球大学の留学生数が年平均300人を下回りますので，その10 倍以上の留学生を受け入れていることになります。ロシアの大学では，留学生が学部や大学院に出願する際，大学で学習できるだけのロシア語力が要求されます。したがって，学部や大学院に入学したい留学生は，まずロシア語を勉強しなければなりません。СПбГУでは外国人のロシア語力の養成のための機関が3つ設置されていました。

(1) СПбГУの外国人のためのロシア語プログラム

a. 入学前予備教育科 → 大学入学を目的とした機関
b. 言語特別学部 → 言語・芸術学部の付属機関
c. ロシア語ロシア文化センター → ロシア語教育を専門とした機関

3. 言語特別学部のロシア語プログラム

筆者は「言語特別学部Филологический специальный факультет」のロシア語プログラムに入学し，ロシア語を勉強しました。ここでは，言語特別学部のロシア語プ

ログラムの概要とその特徴について述べます。

図4. 言語特別学部

3−1. 概要

「言語特別学部」のロシア語プログラムに参加した外国人留学生は，2007年9月から2008年8月までの1年間で1,238人でした。地域別の内訳は図4のとおりです。ヨーロッパとアジアからの留学生が殆どでした。同時期の1年間本学で日本語を学んでいた留学生数は140人程度でしたから，その10倍以上の数の留学生を受け入れています。前述したようにＣПбГУ（エスペーベーゲーウー）では同様に外国人がロシア語を学ぶ機関をさらに2つ抱えているので，同大学にロシア語を学びに来ている留学生がいかに多いかが伺い知れます。

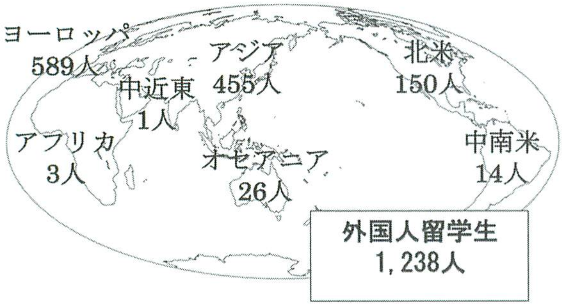

図5. 言語特別学部に在籍した外国人留学生数
(2007年9月－2008年3月)

さて，当学部ではこのように多様な学習者を受け入れるため，目的やレベルにおうじて6つのコースまたはプログラムが用意されており（表1参照），授業は個人レッスン以外は1クラス8-12人からなる小人数体制で実施されていました。実際の授業はコースごとに行われるのではなく，学生のレベルにおうじてクラス分けされますので，いろんなコースの学生が同じ教室でいっしょに学んでいました。個人レッスンはコースに属している学生が要望におうじて受講しており，また7月，8月は多くの国では夏期休業の時期なので，短期プログラムで勉強する学生が多く訪れました。

このような環境で外国語教育を行っている当学部にたいし，素朴に以下のような疑問が生じてきました。

表1. 言語特別学部のロシア語プログラム（2008年）

初心者のためのロシア語（Aコース）
ロシア語一般コース（Bコース）
ロシア語予備教育コース（Cコース）
ビジネスロシア語（Dコース）
個人レッスン
サマープログラムなど休業期間の短期プログラム

(2) 言語特別学部にたいする疑問
 a. どうしてたくさんの留学生が集まるのか
 b. たった1つの言語教育プログラムで多様化する学習者のニーズをどうやって満たしているか
 c. 多くの学生を抱えながらも，どうやって少人数クラスを運営していっているか

次は，言語特別学部のロシア語教育プログラムの特徴について述べ，この疑問の答えを探ってみたいと思います。

3−2. ロシア語プログラムの特徴

① 小人数体制

1クラスは8-12人の小人数クラスで，教員が学習者1人1人と向き合い，おのおのの進度におうじてきめ細かく指導することが可能となっていました。クラスの人数は時期によって増減があり，学期が終わる6月ごろになると帰国する学生が多く，1クラスの人数が激減しました。その場合は同じレベルのクラスを統合するということが行われました。

② 授業の選択の自由

私費の留学生は科目ごとに授業料を支払いますが，必修科目というのはとくになく，必要な科目を必要な時間だけ選択することが可能でした。これにより，学習者はそれぞれのニーズにおうじて受講科目を自由に選ぶことができました。

③ 個人レッスンの導入

学習者が規制のコースの授業だけでは物足りないと感じたり，授業の遅れを取り戻したいと思ったときは，有料の個人レッスンを受講することができました。これにより満足して帰国していく学習者も見られました。

④ 午前と午後の二部体制

基本的に受講するコマ数は1週間に最大10コマ（1コマ=90分），1日2コマでしたが，午前と午後に同じ科目が同じ数だけ開講されるため，午前の部2コマ（9:30-12:40）か，午後の部2コマ　（13:00-16:10）かどちらかに受講するようになっていました。

これは，同じカリキュラムが午前の部と午後の部で平行して開設されているということで，単純に考えると2倍の学生が受け入れ可能となっています。

このように，小人数クラスでしっかり指導を行い，成果をあげるとともに，留学したい期間や学習したい科目など多様な学習者のニーズに可能な限り対応できるよう，柔軟な受け入れ態勢を構築していることが，多くの留学生を受け入れられている大きな理由のように思われます。

受け入れ態勢の柔軟性を示すこのプログラムの特徴は他にもあります。

⑤　自由な受講期間

留学生が受講したい期間を選べます。1週間とか1ヶ月といった短期間受講することもできますし，半年や10ヶ月などある程度長い期間受講することも可能です。留学生の都合に合わせ，勉強したい期間を自ら選んで留学することが可能です。

つまり，授業は一年中行われており，入る時期もやめる時期も学習者が自ら選ぶことができるということです。これにより，各国の事情に合わせて留学することが可能となっています。日本の大学では入学時期を国際標準とし，活発な国際交流を進め，海外競争力を高めるという目的で秋入学制度導入の議論が始まっていますが，ここでは学習年度の開始や終了時期に左右されることなく，留学することができますし，夏休みや春休みだけ受講することもできます。また，帰国する時期も自由に決め，クラスを修了することができます。

⑥　クラスの変更が可能

入学する際にはプレイスメントテストを受け，適切なレベルのクラスに配置されます。しかし，受講してみてレベルが合わない場合，受講生自身の希望により，レベルの変更が可能です。その場合，コーディネータと相談することになりますが，多くの場合受講生の希望が認められます。

⑦　レベルやグループをまたいでの科目の選択も可能

たとえ同じグループに配置されても，科目によってはレベルが異なる場合があります。むしろ，「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能のレベルが均等な学習者は少なく，そのうちの得意な技能と苦手な技能があるのが普通です。その場合，得意な技能

だけ上のレベルのクラスを受講したり，また，苦手な技能だけ下のクラスを受講したり，ということが可能です。

また，午前と午後の2部制をとっているので，午前のグループは午前の科目だけを受講し，午後のグループは午後の科目だけを受講するのが基本となっていますが，午前と午後をまたいで科目を受講することもできます。そうすると，工夫次第では月曜日から金曜日まで毎日受講しなくてもいいように時間割を組むことができるわけです。

学習者にはあらゆる面で自由が与えられています。学習者に満足してもらえる授業を提供し，いつでもだれでも手続きさえふめば自由に受講できるという体制を整え，さらに，それが希望におうじて自由に修正できるというプログラムは，学習者にとってはかなり魅力的なものに映るでしょう。そのため，多くの留学生がこのロシア語プログラムに集まっていると思われます。

しかしそれは裏を返せば，ロシア語力の向上も学習者自身の責任に委ねられているということです。高い意識を持たずに留学した学生にたいしては，学校の先生のように親身になって世話を焼くというわけではないため，何の成果も得ずに帰国する，ということも起こりえます。

4. ロシアの授業の実際

では，次に実際どのように授業が行われたかについてまとめたいと思います。

4―1. ロシア語プログラムの構成

ロシア語のクラスのレベルは表2のようにおおまかに次の5段階に設定されていました。

表2. レベル別授業科目の構成（2008年）

レベル	科目（週あたりコマ数）
ゼロ初級（A1）	複合的授業（10）
～初級（A2）	文法（4），会話（4），読解(2)
～中級（B1）	文法（3），会話（3），読解（1），新聞（1），作文（1），発音（1）
～中上級（B2）	文法（2），会話（2），語彙（1），文学（1），新聞（1），作文（1），発音（1），ビデオ「ロシア映画」（1）
～上級（C1）	文法（1），会話（2），語彙（1），文学（1），新聞（1），作文（1），発音（1），ビデオ「ロシア映画」（1），実用ロシア語（1）

ゼロレベルでは基本的な事項を総合的に養成するため，とくに科目の設定は行われておりません。しかし，レベルが上がるにしたがって技能別のクラスが増え，上級クラスではすべてのコマが異なる技能の養成の科目となっているのが特徴的です。

4−2. 開講されていたクラスの種類

実際に開講されていたクラスの種類と数について，表3のデータをもとに説明します。

小区分というのは初級，中級，中上級，上級の4レベルの間を細かくレベル分けしたものです。表3を見ていただければ分かると思いますが，初級，中級，中上級のレベルはさらに細かく3-4段階に分けられています。

同じレベルの学生が多い場合は小人数体制を維持するため，いくつかのグループに分けられます。9月はロシアをはじめ世界の多くの国々で学習年度の始まりにあたり，入学したばかりの留学生が多かったので，ゼロ初級と初級レベルの学生が多く，グループ数も多くなっています。全体として27のグループが構成され，午前の部と午後の部とに分かれて開講されていました。また，この表には反映されておりませんが，同時期に1週間の短期集中クラスを7グループ開講しており，合わせると全部で34グループとなっていました。1グループ10人前後で構成されていますので，この1週間に同時に300人ほどが同じ場所でロシア語を勉強していたということになります。

表3. 開講クラス（2008年9月29日現在）

レベル		グループ数
大区分	小区分	
ゼロ初級（A1）	0	3
～初級（A2）	0-1	5
	0-2	4
	0-3	4
～中級（B1）	I-0	1
	I-1	1
	I-2	2
	I-3/II-0	3
～中上級（B2）	II-1	1
	II-2	2
～上級（C1）	II-3	1
計		27

ただし，グループの数は留学生数によって大きく変動し，学習年度が終わる6月から7月初旬にかけては帰国する学生が多く，グループ数もこの半数以下となる時期がありました。クラスの人数が減ってくると同じレベルのグループを統合するということも行われました。

4−3. クラス配置の流れ

学期の始まりと終わりの設定がとくになく，好きなときに来て，好きなだけ授業が

受けられるという制度であることはすでに述べましたが，では，どうやってクラスに配置するのでしょうか。それは以下のような手順で行われます。

(3) クラス配置の流れ

a. 申し込み（渡航前でもインターネットで可）― 受講期間と授業時間数
b. プレイスメントテスト ― 文法の筆記試験，またはレベルを自己申告
c. とりあえずクラスに入ってみる
d. レベルに合わないと思ったら，事務所へ行って変更

まずは，あらかじめ受講期間と授業時間数を決め，申し込みます。私費の留学生の場合は申込みの際に支払いを行います。

次にプレイスメントテストを受けますが，これは文法の筆記試験で行います。ただし，全員におこなっているわけではなく，どのぐらいのレベルかをロシア語学習歴や自己申告で判断する場合もあります。

その後，レベルにあったクラスに配置されますが，その際，受講してみて，合わないと思ったら，相談に来るように事務の方に言われます。つまり，試しに配置するという姿勢です。

実際に受講してみて，難しすぎる，または，易しすぎると感じたときは，事務所へ行ってクラス変更を申し出ます。授業担当の教員からクラス変更を助言される場合もありますが，いずれにしても受講生が自分で事務所へ行って，相談しなければなりません。

事務所にいるコースコーディネータは基本的には受講生の意思を尊重し，希望のクラスに配置してくれます。こうしたクラス変更はいつでも自由に申し出ることが可能であり，受講してしばらくたってからでも，自分のレベルとクラスメイトのレベルが違うと感じたら，いつでも変更することができます。この制度のおかげで学習者がクラス配置に不満をもらすことはほとんどなく，自分に合ったクラスでロシア語学習に集中して取り組めます。

4－4. 時間割

筆者が参加したクラスは中級レベルの「グループ11」と呼ばれているグループでした。表4はグループ11の時間割です。

表4.「グループ11」時間割（2008年3月－7月）

		月	火	水	木	金
9：30～11：00	科目	文　法	文　法	読　解	会　話	発　音
	担当	アルヒポーヴァ	アルヒポーヴァ	アンツィーフェロヴァ	キセリョーヴァ	キセリョーヴァ
11：10～12：40	科目	文　法	作　文	読　解	会　話	会　話
	担当	アルヒポーヴァ	アルヒポーヴァ	アンツィーフェロヴァ	キセリョーヴァ	キセリョーヴァ

毎日2コマずつですが，同じ教員が引き続き担当するため，授業は1，2コマが連続した1つの授業のように持続的に行われました。また，月，火と木，金は同じ教員が2日連続して授業を行うため，連続した授業の1日目（月または木）に課題を出し，2日目（火または金）の授業で確認するなど，継続性を活かして効果的に授業が行われました。

4－5．受講生

「グループ11」に所属していた留学生についてまとめたものが，次の表5です。

表5.「グループ11」の受講生（2008年5月現在）

	氏名（頭文字）	留学期間	国	身　分	目　的
1	P	2007年9月－2008年6月	フランス	契　約	語学研修
2	S	2007年9月－2008年9月	スリランカ	契　約	学部入学
3	S	2007年9月－2008年6月	台　湾	契　約	語学研修
4	F	2007年9月－2008年6月	台　湾	契　約	語学研修
5	F	2007年9月－2008年6月	台　湾	契　約	語学研修
6	V	2008年3月－2008年6月	イタリア	交流協定	語学研修
7	L	2008年3月－2008年5月	デンマーク	契　約	語学研修
8	H	2008年3月－2008年5月	デンマーク	契　約	語学研修
9	E	2008年3月－2008年5月	デンマーク	契　約	語学研修
10	S	2008年3月－2008年8月	イタリア	契　約	語学研修
11	M	2008年3月－2008年12月	韓　国	契　約	語学研修
12	T	2008年3月－2009年2月	日　本	交流協定	語学研修
13	Y	2008年3月－2009年2月	日　本	交流協定	語学研修
14	K	2008年3月－2008年9月	日　本	研究生	大学院入学

「契約」というのは私費で自ら言語特別学部に受講を申し込んだ学生のことで，当時のグループ11のほとんど（約7割）は私費留学生でした。交流協定にもとづいて短期交換留学をしている学生も3人（約2割）おり，そのうちの2人は新潟大学からの交換留学生でした。

国の内訳はヨーロッパはフランス，イタリア，デンマーク，アジアはスリランカ，台湾，韓国，日本の学生でした。寮には多くの中国からの留学生が見られましたが，「グループ11」には1人もおりませんでした。

本プログラムに入学した目的のほとんどは語学研修ですが，学部入学の予備教育としてロシア語を学んでいる学生もいました。

留学期間は各人各様で，1年以上在籍しているものもいれば，3ヶ月で帰国したものもいました。

4－6. 授業運営，学生指導の特徴

ロシア語の授業の進め方等にかんしては紙面の都合上詳細に述べることはできませんが，日本で行われている日本語教育と比べて授業運営や学生指導の面で気がついた点をいくつか述べたいと思います。

①出欠や遅刻にたいして寛容

担当教員は遅刻者や欠席者にたいして厳しく接することがありませんでした。欠席してロシア語が上手にならないのは学習者の責任であると考えられているようでした。教員によっては毎回出欠をとる授業もありましたが，それはきちんと授業に出席させることを目的としたのではなく，どの学生がどのクラスに所属しているかを確認するという，コース運営上の目的で行われていたようでした。

②クイズや定期試験は基本的にない

留学期間が受講生によってまちまちなので，とくに定期試験というものは行っておりません。学生によっては，帰国後，出身大学にロシア語学習を証明する書類を提出しなければならないものもいますが，その場合，帰国する前に授業の担当教員に相談し，個別に評価をしてもらっていました。

③プロジェクトワークなどの活動も少ない

学生の入れ替わりが激しいため，プロジェクトワークなどのグループ活動や課外活動をやるには少々不向きで，とくに行われませんでした。

④教室の急な変更等が時々ある

朝，普段通り授業に行ってみると，教室が変更となっていたり，これまで所属していたグループが他のグループと統合していたり，ということがよく起こりました。また，ロシアでは労働者は1年に1月程度の長期休暇をとることが日常的に行われますが，そうした理由により教員が休暇した場合などは，授業担当者が途中で交代するということもありました。

4－7. 教員に求められるもの

当学部のロシア語教育プログラムは受講期間の設定や受講科目の選択などあらゆる部分で学習者の意思が尊重されているため，多様な学習者のニーズを満たすことに成功し，多くの留学生を集めていることはすでに述べてきたとおりです。一方，教員の側から見ると，授業を担当する際に負担になる面もいくつかあるように思われました。

①授業計画が立てにくい

入学時期や修了時期が受講生によって異なり，また，突然のクラス変更などが日常的行われます。クラスの統合などもあったりして，授業を受講する学生が一定不変というわけではありません。したがって，年間や学期ごとの計画が立てにくく，立ててもそのとおり実行するのは難しいように感じました。

②　授業の継続性の確保

上述したこととともつながりますが，学習者は受講科目も自分で自由に選択します。同じグループの同じ担当者の授業でも，ある曜日には受講し，違う曜日には受講しない，ということもあります。教師から見ると，同じグループなのに曜日によって受講生が違うということになり，授業の継続性を保つのが難しい状況です。

③　柔軟な対応力

授業担当教員は，受講生の変更だけではなく，受講生の増減による教室の変更，担

当するグループの変更などが急に行われることもあり，変化への柔軟な対応力が求められます。

4―8. ロシア文化体験

カリキュラムの中ではロシア文化について学ぶ授業はとくに設定されておりません。ロシア語の授業の中で適宜とりあげて説明するという形で行われています。

ロシア文化を体験する授業もとくありませんが，名所（図6参照）への見学ツアーは次の要領で適宜行われておりました。

(4)ロシア文化体験ツアー

a.行きたい人（15-25人）を掲示等により募集

b.参加料は基本的に有料（¥600-¥9,000程度）

c.担当者のガイドつき

図6. 主な見学先

5. 寮

市中心部と郊外（ペテルゴフ）の2カ所に巨大な寮があり，留学生に限らず，多くの学生が寮から通学しています。基本的に留学生には入寮が認められ，部屋が不足し

て入寮できない，ということを問題にすることはないようです。

しかし，日本の寮とは異なり，2人または3人の相部屋であり，1つのブロックに2つの寝室とバス，トイレ，キッチンがあります。つまり，バス，トイレ，キッチンは5人の共用ということになります。寝室にはベットと机，イス，本棚が一人に1つずつ準備されています。

建物または敷地の入り口は守衛が人の出入りを常にチェックしています。入寮者はICカードを入り口の機械に通すことで入ることができます。なお，住民以外のものを寮に入れる際には身分証明書（パスポート）を預けなければならないなど，セキュリティチェックに大変気を使っています。さらに，夜間（1:00-6:00）は住人でも入館不可となります。

郊外にある寮は言語特別学部までバスと地下鉄を乗り継いで片道2時間かかるため，多くの留学生が市中心部の寮に入ります。ただし，市中心部の寮はその便利さから人気があり，部屋がない場合は空きが出るまで郊外のほうに入寮させられる場合もあります。

図7. ペテルゴフ（郊外）の寮

6. 結

これまで述べて来たとおり，筆者が体験したロシアにおける留学生教育（ロシア語教育）に限って言えば，クラス分けや科目の選択が自由であったり，好きなときに来て，好きなときに帰国可能であったり，欠席，遅刻に寛容であったり，見学が応募制であったりと，あらゆる面で学習者の自主性を重視しているということが言えます。これにより学習者はニーズを満たされたまま受講することができ，満足した状態で帰国したり，進学したりすることができます。こうした姿勢が留学生数の増加につながっているのではないか，と感じました。

また，留学生数が増加しても，小人数制クラスをかたくなに保持している姿勢には感心させられました。どんなに受講生が増えても，質の高い言語教育を行うためには必要と考えられているのです。もちろんそのためには課題もあることとは思いますが，変動の多いクラス数に対応するため，教員，教室の確保に常に努めています。

ロシア語を学びにきている学習者にとって一番嬉しいことは，やはり自分のロシア

語が向上することでしょう。そうしたニーズを満たすには小人数クラスで教室内で学習者一人一人と相互交流を行う機会を確保し，個々の進度に合わせてきめ細かに指導する，ということがもっとも効果的な方法の1つだと言えます。また，そうすることで教員の指導の質も向上することが期待されます。こうした小人数クラスの利点をきちんと理解し，留学生数が増加してもその部分をきちんと守っていくという体制が，さらなる学習者の満足度を喚起し，留学生数の増加という好循環を生んでいるように思いました。

同学部内にはロシア語検定試験センターというのがあり，それも学習者の動機づけに大きく貢献していました。この点についても報告したかったのですが，紙面が尽きましたので，またの機会にしたいと思います。

以上，7ヶ月という短い時間ではありましたが，筆者が体験してきたロシア語教育について留学生教育に携わる身としては参考にすべき部分がよくも悪くもあるように思いましたので，報告させていただきました。

（琉球大学留学生センター）